

令和5年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標		心豊かにたくましく 自ら学び 人とつながる 小野っ子の育成		
推進主体		管理職、学校教育改革推進委員会を中心とした学力向上委員会		
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				
学 力 の 状 況	学 力 上 向 上 に 向 け て の 重 点 的 な 目 標	4月	2～3月	
		成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	
		(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価	
学 力 の 状 況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	○内容項目の知識及び技能、思考力、判断力、表現力等においても全国平均を上回り、とくに、「話すこと・聞くこと」領域で、12.4ポイント、「読むこと」領域では、19.1ポイント全国平均を上回って、「思考・判断・表現」の観点で理解が深まっていた。 ◆「書くこと」において、全国平均を5.6ポイント下回り、課題があった。(経年)	・「書くこと」「話すこと」を授業の中に積極的に取り入れ、自分の考えを持ち、友達の見解と似ているところや違うところを比べながら聞く等の活動を行う。 ・自分の考えを書く、質問や付け足しをして話し合いをする、など、言語活動の活性化によって、一人ひとりの理解を深める。
		算数	○「数と計算」、「図形」、「変化と関係」データの活用」の全領域で、全国平均を上回っていた。また、「思考・判断・表現」の観点において全国平均を14.7ポイント上回り、とくに記述式の設問で25.5ポイント上回るなど、数学的思考の深まりが見られた。 ◆領域では「変化と関係」データの活用」、観点別では「知識・技能」において、設問によって全国平均を大きく下回り、課題が見られた。	・自分の考えをノートや黒板、iPadを使って発表したり、図や表を使って説明したりする活動を積極的に行う。 ・题意把握、自力解決、集団解決において資料やデータ、具体物や半具体物、絵や図などを活用した活動を通して理解を深める。
		ICT機器を効果的に活用した取組状況	○◆学校評価・児童アンケートの結果では「授業でもっとコンピュータなどのICT機器を使いたいと思いますか。」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて72%であった。タブレット端末(iPad)の導入で、子どもたちの学習意欲が高まっている。より効果的な使い方を工夫していく。	・全国学力・学習状況調査の質問紙、学校評価の児童アンケートの「ICT機器の活用」についての結果で、昨年度を上回る。 ・各教科で資料を提示したり、データをもとに話し合ったりする活動にタブレット端末を活用し、情報の収集、整理、分析等の技能の伸長を図る。 ・タブレット端末を活用した協働的な学習の充実、情報の整理等を学習に位置付け、思考の可視化、操作化を促す。
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	○年度初めの学力テストで、各児童の学力の把握し、学習の基本となる漢字・計算の習熟を図る。 ◆家庭と連携を取り、個別の補充学習を行っていく必要がある。	・個別学習、補充学習等により、確実な定着を図り、単元テスト等で見取っていく。 ・年度初めの学力テスト等で、各児童の学力の把握を行い、結果を授業改善、個別支援に活かす。 ・プリントやドリル、ミラシードを活用し、朝学習等で取り組むとともに、家庭学習との連携を図る。	
	授業等からうかがえる状況(各教科)	○国語科でフリーワークを取り入れ、児童が主体的に学ぶ学習展開の研究に取り組むことができた。 ○算数を中心に学習の「めあて」と「ふりかえり」を運動させ児童が学びを実感できる授業を工夫した。	・「さら」に取り組みを進め、児童一人ひとりが主体的、意欲的に取り組める授業展開を工夫していく。 ・全国学力・学習状況調査の質問紙、学校評価の児童アンケートの結果で昨年度を上回る。 ・国語フリーワークによる学習、算数ガイド学習の研究に基づく「子どもたちが進める学習」を展開する。 ・「めあて」と「ふりかえり」を運動させ、児童が自ら学習に向かい、学びを実感できるようにする。	
	学習習慣の向上	○「規範意識」「生活習慣・学習習慣」については概ね良好である。 ◆「読書は好きですか」の質問で、肯定的な回答が全国平均を30ポイント以上下回り、比較的低い。	・図書室利用の活性化、隙間読書の設定、音読カードによる家庭学習の習慣化等を継続していく。 ・質問紙、学校評価の児童アンケートで「読書が好き」「読書時間」の結果で昨年度を上回る。 ・学校司書と連携した図書室の利用の活性化、隙間時間を利用した読書タイム「おのっ読書」の設定、国語科と連携した音読カードによる家庭学習の習慣化等を図る。	
状況に係る慣学	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	○普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」で「1時間以上」の回答が全国平均を上回った。 ◆「勉強は好きですか」を問う設問では、国語、算数、理科で肯定的な回答が42.9%であった。	・家庭学習の充実、読書習慣作り等に取り組んでいけるよう家庭と連携していく。 ・家庭学習の課題について、家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」等で具体例を示しながら、家庭学習、読書習慣の定着を図り、学校評価アンケートによる評価の向上を目指す。 ・毎日の音読カードやミラシードのドリル学習を活用した取り組みを通して、家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」の活用につながる家庭学習との連携を進める。	
校 内 の 研 究 状 況 ・ 研 究	校内研究の状況	○フリーワークを取り入れるなど、授業改善に取り組んでいる成果が表れてきている。 ◆授業の改善、支援の方法等の共有を図る。	・国語フリーワークによる学習、算数ガイド学習の研究を中心に、児童が主体的に取り組む学習の研究を進める。 ・授業公開、授業研究に取り組み、研究テーマに沿って、子どもたちに付けたい力や授業のポイントを交流し、共有することで授業改善を進める。	
	校内研修の状況	○国語、算数、人権学習、生活指導に関する児童理解の研修等を計画的に行うことができた。 ○小規模、複式の課題を明確にした研修を行う。	・学力向上に向けての研修と生活指導、特別支援等についての研修を効果的に組み合わせる研修を行う。 ・年間の研修の回数、具体的な内容を設定し、PDCAサイクルを全職員で共有して、学校評価等で、取り組みの検証、検討を行う。 ・フリーワークを取り入れた学習、ガイド学習、児童理解等についての研修、今日的課題に対応した研修を計画的に行い、職員の共通理解を進める。	
家 庭 ・ 携 校 種 間 連 携	家庭・地域等の状況	○保護者、地域による参観、学校行事への参加を年間行事に位置づけて設定、実施した。 ◆地域人材の活用等を積極的に進めていく。	・「開かれた学校づくり」を推進し、保護者、地域の学校教育への関心を高め、連携を深める。 ・保護者、地域参加の学校行事等について、学校だより、学級通信、学校メール等で積極的に情報を発信し、保護者アンケートで内容の評価、検討を行う。	
	小・中における教科連携等の状況	○授業参観等を行い、各校の課題の把握や共通理解を図った。 ◆校区の目指す子ども像を「将来の夢や目標を持ち、挑戦する子ども」とし小中連携を推進していく。	・「開かれた学校づくり」を推進し、保護者、地域の学校教育への関心を高め、連携を深める。 ・交流会、連絡会、担当者会等を定期的に開催し、回数や内容についての検証、検討を行う。 ・各校児童の交流、合同での行事開催、職員相互の授業参観、合同研修会を通して情報を交流し、児童生徒理解、教育課題を共有する。	